

令和4年 年末市長あいさつ

令和4年の仕事納めにあたり、本年の締めくくりとして、職員の皆さんに感謝の意をこめてお話しします。

今年は、「夢を語り、挑む都市づくり」をテーマとして掲げ、感染対策に万全を期しつつ、インフラ整備や未来の都市づくりに取り組んできました。

新型コロナウイルスについては、感染拡大の波が繰り返されるなか、第8波では本市における1日の新規感染者数が過去最多の699人を記録するなど、発熱外来医療機関や感染症患者受入医療機関への負担が大きくなっていますが、これまでも医療機関への支援、医師会などの協力団体や津保健所と連携した取組を進めるとともに、市民や事業者への支援も積み重ね、感染拡大の波を乗り越えてきました。国においては、コロナ禍で落ち込んだ観光需要を喚起することによる地域経済の再生に向けて、訪日外国人の受け入れ拡大や全国旅行支援が行われるなど、ウィズコロナが新しい段階へと進展しています。

その一方でロシアによるウクライナ侵略、円安などによる原油価格や物価の高騰が長期にわたり私たちの生活に深刻な影響を与えていますが、このような状況に対しても、スピード感を持って影響を受けている市民や事業者への津市独自の支援策に取り組んできました。

そして、コロナや国際情勢による厳しい状況が続くなかではありましたが、市民生活や地域経済を支える基盤整備や将来のインフラ整備、未来の都市づくりに向けた取組をはじめ、津市を支えるそれぞれの業務にもしっかりと取り組んでいただきました。皆さんのこの1年間の努力に敬意を表しつつ、今年取り組んできたことを振り返りたいと思います。

まずは、組織についてです。令和4年は昨年12月に施行した「津市公正公平な市政の確保に関する条例」の下、ガバナンスの強化へフェーズを移行し、4月には、内部統制室に新たな理事を迎え、公正公平な市

政を遂行する統制の取れた組織体制の保持に向けた新たなスタートを切りました。そのようななか、9月に平成30年度の競艇広告を巡る汚職で職員が逮捕される事件が発生し、市民の信頼を損ねることとなりましたが、速やかに事件の検証を行うとともに、内部統制の徹底に向けて研修を開催し、隙のない組織づくりを進めました。事件発生当時は、改革前で、条例も存在していなかったことからガバナンスが十分機能していなかったかもしれませんが、今後において同様の事件は、起こり得ないものと考えます。

一人ひとりが誰から見ても毅然とした態度で公正公平に職務を遂行することはもとより、組織として一体となり揺るがぬ姿勢で対応し、疑義等があった際には、内部統制室ともよく相談して、公正公平な市政の確保に取り組んでください。

新型コロナウイルス感染症に対しては、コロナ禍が長期化するなかで、市民の生活を守り地域経済を支えるための、市独自の支援策を重ねてきました。

生活者への支援としては、出席停止日数等に応じて児童生徒等1人につき10,000円・20,000円の特別支援金を昨年度に引き続き交付し、臨時休業・出席停止措置等に伴う家計への負担軽減を図るとともに、国の住民税非課税世帯等に対する10万円の臨時特別給付金も速やかに支給しました。

事業者への支援としては、7月19日からプレミアム付デジタル商品券の市内外への販売を行うことにより、市内事業者の支援や市内経済の活性化に取り組むとともに、デジタル決済への取組を促進しました。感染防止に係る環境整備をしながら事業継続に取り組む事業者を支援するため、「みえ安心おもてなし施設認証制度」の認証取得事業者を支援するとともに、市文化施設で感染拡大防止措置を講じ文化芸術活動等を開催する文化芸術団体等への支援や収入減少を補償する農業経営収入保険料への支援を行いました。高速船運航事業者や鉄道運行事業者に対しても、安定して経営を継続していくための支援を実施す

るなどきめ細かな支援を重ねました。

感染リスクを軽減するための環境整備に向けては、感染症が疑われる患者への救急業務を行う際の資機材等の配備や保育所・小中学校等の学校施設、保健センター等の公共施設に手指消毒液等の感染防止物品を配備するとともに、トイレ70基の洋式化やエアコン557基の改修整備を進めました。幼稚園のICT化にも取り組み、将来を見据えた環境整備も行いました。

同時に物価高騰対策にも取り組みました。物価高騰等の影響に直面する子育て世帯に対して所得制限を設けずに、児童1人当たり12,000円の支援金を支給するとともに、保護者への負担を増やすことなくかつ給食の質を保って提供できるよう、市内の給食を実施している保育園、幼稚園、認定こども園、小・中・義務教育学校等の給食会計への支援を行いました。国の支援である低所得の子育て世帯に対して児童1人当たり5万円を支給する子育て世帯生活支援特別給付金や住民税非課税世帯等への一律5万円の価格高騰緊急支援金の給付に速やかに取り掛かるとともに、国の給付金の対象とならない住民税均等割のみ課税世帯等に対する家計を支援するための新たな給付金の準備も進め、経済的に不安を抱える外国人住民に対しては専門家による相談会を実施するなど、しっかり対応してきました。

物価高騰の影響を受ける事業者への支援も丁寧に重ねました。エネルギー経費の高騰が経営を圧迫している中小企業や小規模企業者への支援金、施設の運営経費や送迎車両の経費が増加している高齢者や障がい者の福祉施設への支援金、肥料価格が高騰している農業者に対する支援金を交付するなどきめ細かな支援を行いました。

一方で、市民生活や地域経済を支える基盤整備に向けた施策も着実に進めました。津興橋の架け替えについては、国の「道路メンテナンス事業補助制度」を活用し、令和4年中に旧橋の橋脚を全て撤去し、令和7年度の供用開始に向けて工事が進んでいます。大谷踏切拡幅事業については、国の「踏切道改良計画事業補助事業」により安定的な財源を

確保し、近鉄架道橋工事を進めています。上下水道事業については、下水道事業基本計画及び第2次水道事業基本計画の中間見直しを行うとともに、浸水から市民の生命・財産を守るため、国の「大規模雨水処理施設整備事業」の補助制度を活用し、藤水地区及び神戸・修成地区における雨水幹線等の整備を進めています。中勢グリーンパークは、いよいよ来年4月にドッグランや芝そりゲレンデ、カフェレストラン等の施設を備えた新エリアがオープンします。香良洲高台防災公園は、防災備蓄倉庫を併設した管理棟と屋内運動施設の令和4年度中の完成に向けて工事が進んでいます。道路施設の老朽化対策は、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の財源を活用し、舗装維持管理強化事業を実施しました。

将来のインフラ整備に向けた「都市の未来図」を描く取組も進みました。大門・丸之内地区は、未来ビジョンの策定に向けて委員会を設置するなど、未来ビジョンの中間案の整理に取り組んできました。今後は、本年度中に未来ビジョンを策定し、エリアプラットフォームが主体となった未来ビジョンに基づく取組を展開していきます。津駅周辺については、10月に行われた県の社会実験を踏まえ、津駅周辺の賑わい創出に向けた取組が進んでいます。西口においても、交通量調査等を実施し、基本方針及び基本構想の策定に向けて取組を進めています。

河芸町島崎町線道路新設改良事業については、県が施工する志登茂川河口架橋区間を含む河芸町島崎町線（3工区）の調査・設計に係る財政的な負担に加え、職員も派遣するなど、県と連携した取組が進みました。中勢バイパスについては、令和5年度中の全線開通に向けて、国において事業が進められていますが、当該バイパスは地域にとって重要な交通ネットワークであるものの、慢性的な渋滞等が課題となっていることから、全線4車線化に向けて、渋滞対策及び交通安全対策に係る事業推進を図られるよう国に対して働きかけています。一級河川雲出川の整備については、流域関係者が協働して流域全体で被害を軽減させる「流域治水」としての治水対策を進め、中流部においては、国と共

に防災・減災対策の推進について、より理解が深まるよう地域への説明を行いました。

未来の都市づくりに向けた取組も進みました。リニア中央新幹線については、リニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会が県内駅の候補地として亀山市内の3か所をJR東海に提示しました。リニア中央新幹線三重県駅につながる広域的な都市づくりに向けてリニア駅候補の先進地視察を実施するなど取組を進めています。DXについては、全庁的かつ横断的な自治体DXを推進していくため、4月に津市自治体DX推進会議を設置し、市民サービスの向上と業務の効率化に向けてAI-OCRやRPAの導入を拡大するとともに、新しいオンライン申請サービスの構築を進めるなど、自治体DXの推進を図りました。8月には、津市地域脱炭素宣言を行い、2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けて、民間とのパートナーシップ協定の締結を重ね、連携と協働による地域脱炭素の推進に向けた取組が進んでいます。

市民の皆様の暮らしに身近な施設の整備も進みました。4月1日には河芸こども園を開園するとともに、6月1日には津西ふれあい会館が新築オープンしました。8月28日には榊原温泉湯の瀬がDBO方式を採用し、新築オープンしました。

安全で安心なまちづくりに向けては、3月に広域避難計画を策定し、南海トラフ巨大地震に備え、沿岸部の住民が西側の安全な避難先に円滑に避難できるようにするほか、鈴鹿市及び亀山市との消防通信指令業務の共同運用による広域的な災害対応の強化や消防通信指令施設の整備・運用面の効率化等を図るため、10月に「津市、鈴鹿市及び亀山市消防通信指令事務協議会」を設置し、令和8年度の共同運用開始に向けた取組が進みました。

新型コロナウイルスの感染拡大により休止していた津花火大会、ビーチバレーin御殿場、津まつりなどのイベントについては、感染対策をしっかりと行い3年ぶりに開催することができ、地域懇談会も7月

から再開しました。未整備森林の解消に向けては、森林経営管理制度における県内初の経営管理実施権配分計画による林業経営体への再委託を実施しました。本年7月30日には、上富良野町との友好都市提携25周年を迎え、記念事業の実施を通して友好都市提携の将来的な継続を確認しました。スポーツ振興については、今後のスポーツ施設の方向性を示すスポーツ施設整備計画を策定するとともに、スポーツ振興基金を活用した施策を展開しています。ボートレース津では、70周年記念としてGIツッキー王座決定戦とともにチームラボ 学ぶ！未来の遊園地を開催し好評を得ました。人口減少対策については、5月に人口減少対策会議を設置し、出生率向上や都市の魅力向上に向けた施策の検討が進んでいます。子どもたちへの水泳指導については、民間委託の効果を検証し、今後の水泳授業のあり方の検討が進んでいます。

この他にも各所管で多くの事業が前進し、職員の皆さんには、この1年間しっかりと職務を行っていただきました。

コロナについては、感染拡大の波が続く厳しい状況となりましたが、これまでの経験を踏まえ、現状だけでなくその先も見据えた支援策を展開してくれました。物価等の高騰も続いています。市民のために何が必要かということをしつかりと考え、きめ細かな支援を速やかに打ち出し、実現し続けてくれた皆さんは、この難局も乗り越えることができるものと確信しています。

年未年始は、1年間頑張っていたご自身を労り、心身をゆっくりと休めてください。年未年始の休暇期間中にもかかわらず、職務に従事をしていただき職員の中には大変ご苦勞をおかけしますが、健康に十分留意していただき、しっかりと仕事をやり遂げ休暇に入りたいと思います。

職員の皆さん、そして、ご家族にとって穏やかな新年を迎えられ、輝ける新年を迎えられるよう心よりお祈りいたします。

1年間本当にご苦勞様でした。